

2020都知事選直前スペシャル 今東京が抱える問題

7月5日に投票が実施される東京都知事選挙が目前に迫るなか、東京ではコロナ禍の陰に隠れ、都民生活を脅かす深刻な問題が進行しつつあります。今号では、羽田空港への低空飛行の運用について「みなとの空を守る会」共同代表の増間啓郎さんに、都立病院・公社病院の独立行政法人化について「都立病院の充実を求める連絡会」代表委員の前沢淑子さんに、それぞれが抱える問題点をうかがいました。

まったく理解できぬ 危険すぎる低空飛行ルート



増間さん

「低空飛行の計画はいつ頃持ち上がったんですか。」

増間さん 本格的な計画が明らかになってきたのは2015年の秋ぐらいからです。インバウンド需要を伸ばすためとか、国際競争力を高めるため、そういう理由でした。計画の具体的な内容は、

羽田空港への新飛行ルートのイメージ(南風で午後好天の場合)



増間さん 東京湾を通過してB滑走路を使うそれまでのルート以外に、赤羽や浦和などの内陸からA・C滑走路を利用する新飛行ルートを導入して国際線を大幅増便するというもので、3月29日から既に運用が開始されています。これにより、従来のルートでは全然問題なかった騒音に悩まされること。白金台に住んでいる会のメンバーの調査によると、テスト飛行があった2月2日には1時間18便、運用開始

後の4月4日には15から18時の間に68便も飛びました。本格運用されると2分に1回くらいの頻度になり、港区周辺では70デシベルの騒音で、1m以内の距離で大声で話さないと会話が成り立ちません。

「高度に関する問題は、増間さん 高輪付近で450mの高さ。千葉県香取市では約12kgもあるエアコンパネルが畑に落ちたのが確認されるなどの事例もあり、落下物も本心に心配です。また、横田基地のいわゆる「横田空域」にかかる関係で、進入角度を3度から3・45度に上げることになったらしいです。我々には騒音低減のためとか理由をつけていましたが、専門家によるとほとんど変わらないそうです。元JALで機長をされていた杉江さんという方は、これにより羽田が世界一危険な飛行場になるという警告を発しています。」

立ち止まり現実見て 都立・公社病院の独法化

都立病院の役割と病床数

都立病院名	主な重点的医療	病床数	400億円の内訳
墨東病院	救命救急、周産期、精神科救急、感染症、災害	765床	68.3億円
駒込病院	がん、幹細胞移植、エイズ、感染症、災害	815床	66.5億円
大塚病院	周産期、小児特殊医療、障がい者医療、災害	508床	28.8億円
広尾病院	救命救急、災害、島しょ(伊豆、小笠原諸島)心臓、脳疾患、災害基幹	478床	30.3億円
松沢病院	精神科(身体合併症、救急、特殊)	898床	60.1億円
多摩総合医療センター	救命救急、周産期、難病、結核、がん、移行期医療、災害	789床	53.8億円
小児総合医療センター	救命救急、周産期、がん、精神、難病、アレルギー、結核、災害	561床	61.4億円
神経病院	難病(神経、筋疾患)	304床	30.8億円
		5118床	400億円

注: ●広尾病院建替後400床 ●大塚病院改修後病床削減

を国際金融都市にする流れの一環として羽田の機能強化を進めてきました。今度の都知事選では、経済優先じゃなく地元住民の生活・安全を最優先にする都政に転換してほしいと思います。

「半減されたわけですね。前沢さん はい。そして去年の12月、小池都知事がいきなり、「新たな病院運営改革ビジョン」(素案)を発表し、8つある都立病院のほか6つの公社病院についても独法化するとの方針を出してきました。」

「都知事選では争点の一つになりそうです。前沢さん 昨年12月に素案を出した後の、パブリックコメントに1511件の意見があり、そのほとんどが独法化に反対だったにもかかわらず、第1回定例会最終日の3月31日、2022年までに独法化を進める方針と6億円の予算を決めました。」



前沢さん

「都立病院の地方独立行政法人化(以下独法化)についておしえてください。前沢さん 石原都政(1999〜2012年)の時に、都

「今回のコロナ禍で医療機関の重要性が再認識されたと思うのですが。前沢さん 新型コロナウィルスの感染者を最初に受け入れ

たのが元都立病院だった保健医療公社荏原病院です。都の感染症指定15病院118床の80床(68%・3月時点)を都立・公社病院が担っています。感染症や難病などの民間では採算がとれない「行政的医療」を都立病院や公社病院が担っているから、都民のいのちが守られ、医療崩壊をあと一歩のところまで止められたんです。だからこそ税金を入れて確保していくのです。」

落ち着かせる政策より

真の困窮者に目を

【渋谷・設計・大鐘弘資通信員】先日、都議会の大津ひろ子議員からDMが届きました。その表紙には「新型コロナ

ウイルスの感染症防止・最新緊急支援策・給付金等」と書かれていて、中を開けると個人向け法人向けの様々な支援金等の説明書があり、改めて今回の経済への影響の大き

さを感じました。私も予定をしていた5月末、7月末の仕事がペンディングになっていますので、今回のコロナの影響は実感しています。速攻で痛手を被る業界は速攻で対応しなければなりません。建設業界はこれから更なる影響が出てくると思っています。私は支部やプロジェクトの情報を集め、組合員

のために行動をしたいと思っています。そのため支部での勉強会を8月に企画し、対象の学習を通して、皆で支援金の申し込みに繋げていきたいと思っています。都には、大体落ち着かせる政策ではなく、本当に末端で影響を受け、困っている都民にまで目を向ける政策を望みます。」

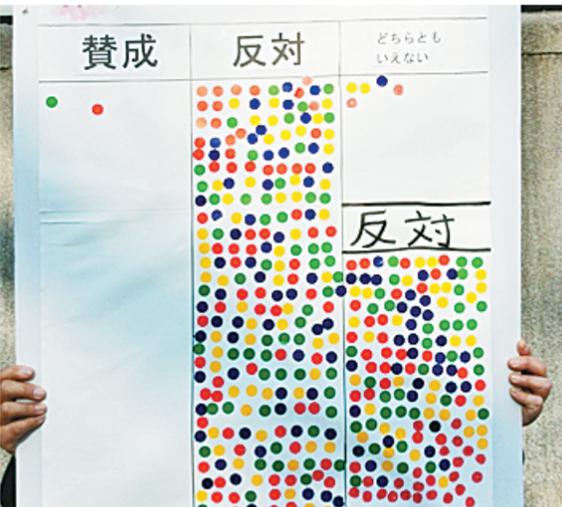
【村山大和・建設事務・高橋久美子通信員】今、世界中を襲っているコロナに対応で陣頭指揮を執る小池都知事は、大臣、二

ユースキヤスターなどの華々しい経歴を経て、初の女性知事として都民の前に現れた。



高橋さん

豊洲、希望の党の問題で勢いが削がれたが、オリンピックが迫る中、ただ怯えるだけである。この都知事選は「お祭り都政」でも「目立つ知事」でもなく、都民の声を聞き、安心して生活できる候補に一票を入れたい。」



低空飛行に対するアンケートでは「反対」が圧倒的だった(昨年の港区高松桜まつりで)



大鐘さん

私たちはこんな都政を望みます